学校建て替えを進めるために生じている課題

当初の建替えロードマップ策定後、建設市況の変化により新たな課題が生じています

学校の老朽化・建替えの集中 ＞ 当初ロードマップを策定 ＞ 建設市況の変化 ＞ 新たな課題が発生

渋谷区立学校は1960～70年代に建設された施設が多く、築50年以上の建物が約6割を占めており、全体的に老朽化が進んでいます。

区では、学校施設の目標使用年数を80年とする長寿命化方針を定めていますが、多くの学校では躯体の老朽化が進んでおり、長寿命化改修を行っても多額の費用が必要となる一方で、使用できる期間も限られることから、経済性や効率性の面で課題があります。

そのため、渋谷区では、学校施設を安全かつ持続的に利用していくため、築80年を迎える前に順次建て替えを行う方針とし、令和31年度までに22校を対象とした建て替えロードマップを策定しています。

【図表3-7 築年別整備状況・用途別保有量】より抜粋



【図表5-1-1 建築物の望ましい目標使用年数】

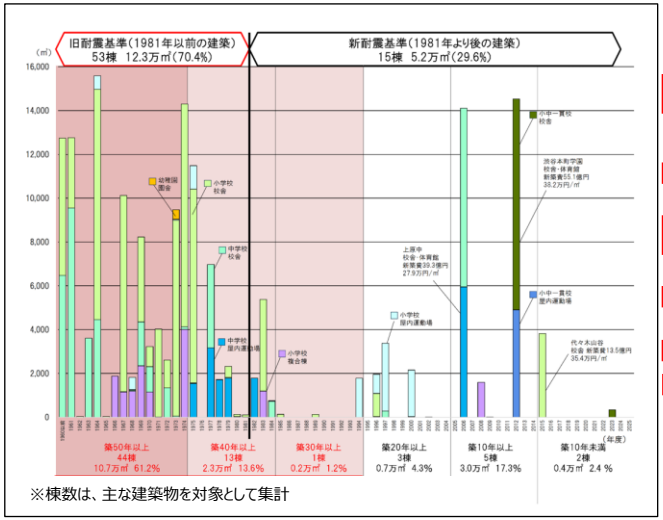
鉄筋コンクリート造 鉄骨鉄筋 コンクリート造		鉄骨造			ブロック造 れんが造	木造
		重量鉄骨		軽量鉄骨		
高品質の場合	普通の品質の場合	高品質の場合	普通の品質の場合			
80～120年	50～80年	80～120年	50～80年	30～50年	50～80年	50～80年

出典：建築物の耐久計画に関する考え方（日本建築学会）

※渋谷区学校施設長寿命化計画より抜粋

（参考）学校ごとの劣化状況や老朽化状況

【図表3-7 築年別整備状況・用途別保有量】



※棟数は、主な建築物を対象として集計

校名	対象総面積（㎡）	最古築年
広尾小学校・広尾幼稚園	5,730	1932
臨川小学校・臨川幼稚園	5,692	1959
代々木中学校	8,495	1961
笹塚中学校	7,475	1961
鳩森小学校	4,123	1974
原宿外苑中学校	5,965	1964
千駄谷小学校・千駄谷幼稚園	5,542	1970
西原小学校	6,871	1969
松濤中学校	7,193	1956
猿楽小学校	4,855	1961
幡代小学校	6,943	1967
中幡小学校	8,022	1967
加計塚小学校	6,547	1960
長谷戸小学校	5,434	1968
上原小学校	4,356	1964
神南小学校	6,548	1964
広尾中学校	7,884	1960
笹塚小学校	5,661	1961
鉢山中学校	5,849	1960
富谷小学校	6,612	1964
神宮前小学校	4,653	1969
山谷幼稚園	434	1973
本町幼稚園	417	1972
常盤松小学校	5,351	1983
上原中学校	14,100	2006
渋谷本町学園	14,407	2012
代々木山谷小学校	5,391	2008

※渋谷区学校施設長寿命化計画より抜粋

1 老朽化の背景

学校の老朽化

築50年以上 **約6割**

多くの学校で建て替え時期が集中

順番に建替える
ロードマップを当初策定

2 その後の変化

建設市況の変化

資材価格 人件費 **上昇**

工期 **延伸化**

人手不足 **深刻化**

当初想定していた工期・施工方法を維持することが難しくなりました

3 発生した新たな課題

課題 1
工事の長期化
1校あたりの想定工期が
3年から5～6年程度へ

課題 2
自校内建替えの困難
校庭利用や教育環境への影響、
新校舎計画の制約が大きくなる

西原地区では、当初のロードマップでは対応できない課題が発生しています

このままでは何が起こるのか？

①**工事の長期化**により、**笹塚小学校**と**富谷小学校**が築後80年を超過して使用する必要がある。
②**自校内建て替えが困難**になったことで、**中幡小学校**と**上原小学校**に影響が生じる。

	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22	R23	R24	R25	R26	R27	R28	R29	R30	R31	R32	R33	R34	R35	R36
	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041	2042	2043	2044	2045	2046	2047	2048	2049	2050	2051	2052	2053	2054
★西原キャンパス仮設																															
代々木中学校																															
幡代小学校																															
西原小学校																															
笹塚中学校																															
笹塚小学校																															
富谷小学校																															
★自校内建て替え校																															
中幡小学校																															
上原小学校																															

当初計画の建て替え順に工期を反映した場合

	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22	R23	R24	R25	R26	R27	R28	R29	R30	R31	R32	R33	R34	R35	R36
	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041	2042	2043	2044	2045	2046	2047	2048	2049	2050	2051	2052	2053	2054
★西原キャンパス仮設																															
代々木中学校																															
幡代小学校																															
西原小学校																															
笹塚中学校																															
笹塚小学校																															
富谷小学校																															
★自校内建て替え校																															
中幡小学校																															
上原小学校																															

【中幡小学校】
自校内建て替えが困難

【上原小学校】
自校内建て替えが困難

【笹塚小学校】
2041年に築後80年を超過

【富谷小学校】
2044年に築後80年を超過

建て替えを進めるために検討した対応方法

①学校の統廃合　**②小中一貫教育校化**　**③改修（リファイニング）**　**④既存校の空き教室利用**

①学校の統廃合

渋谷区の児童・生徒数は、1982年の約2万600人から一時的には減少しましたが、2025年には約9,500人まで回復しています。今後は減少傾向で推移すると見込まれていますが、学校の配置については、児童・生徒数だけでなく、通学距離や適正な学校規模、地域コミュニティ、防災拠点としての役割などを総合的に考える必要があります。
これらを踏まえ、今回の課題を、統廃合によって解決することは適切ではないと判断しています。

通学負担
学区域の拡大による負担

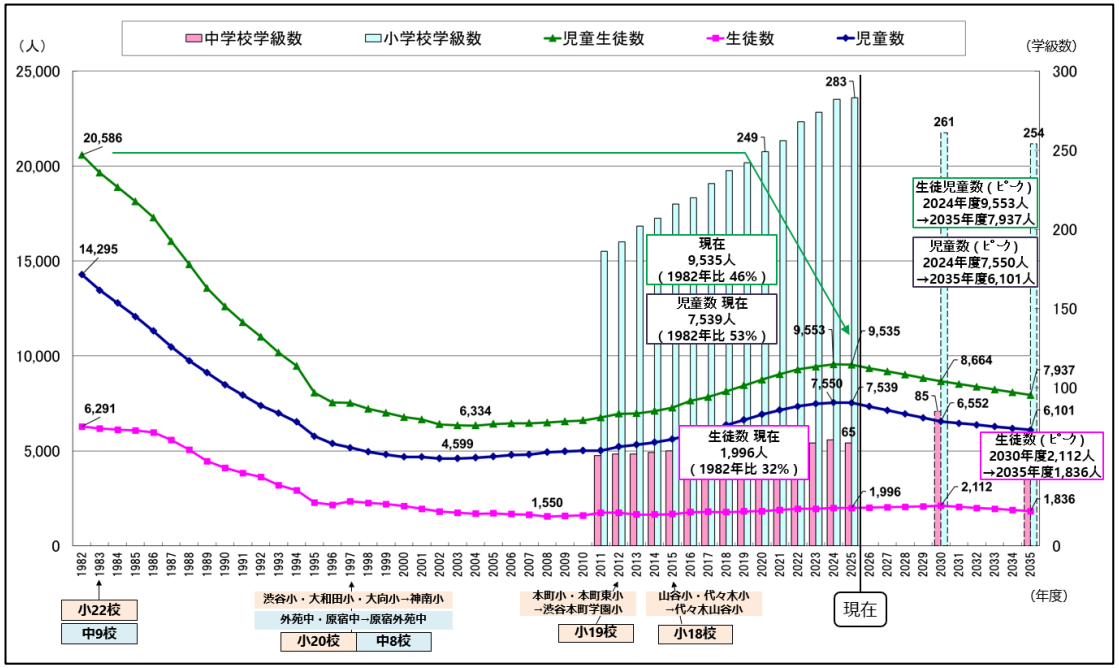
適正な学校規模
文部科学省基準

地域・防災拠点
地域開放・避難所の役割

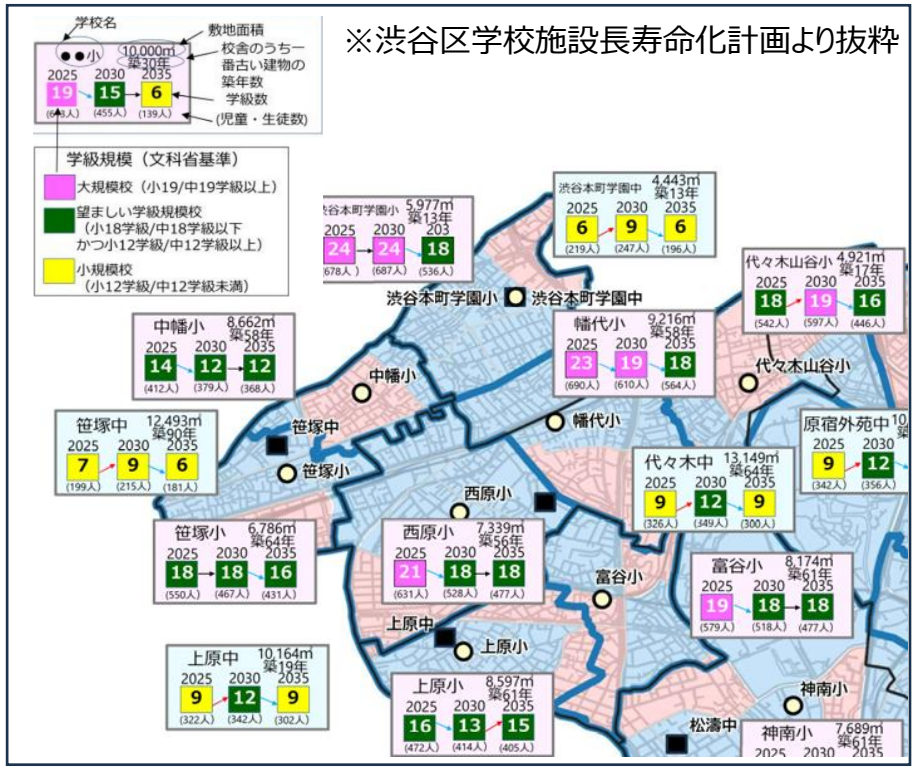
以上の理由から、学校の統廃合は適切ではありません。

【図表3-5 学校別 児童・生徒数、学級数の推移】抜粋 ⇨

【図表3-4 児童・生徒数、学級数の推移】⇩



※渋谷区学校施設長寿命化計画より抜粋



建て替えを進めるために検討した対応方法

①学校の統廃合　②小中一貫教育校化　③改修（リファイニング）　④既存校の空き教室利用

②小中一貫教育校化

渋谷区「新しい学校づくり」整備方針では、学校規模や配置、通学距離などを総合的に検討し、西原地区では、笹塚中学校と笹塚小学校による小中一貫教育校を計画しています。この地区内の他の学校については、学校の大規模化や通学距離などの課題があります。
これらを踏まえ、今回の課題を、さらなる小中一貫教育校化によって解決することは適切ではないと判断しています。

STEP 1　児童・生徒数の推計により、将来小規模校となる学校を抽出

- 各学校の配置状況から、区内を3ブロックに分けて検討を行いました。
  また、2050年に小規模校（小学校・中学校共に12学級未満）となることが予測される学校を抽出（※）しました。

※抽出の対象外とする学校
ⅰ）小中一貫校 … 渋谷本町学園
ⅱ）築浅又は建替検討中の学校
… 代々木山谷小、上原中、神南小
ⅲ）2050年時点で18学級以上あると予測される学校
… 神南小、幡代小、西原小、代々木山谷小



【Aブロック】千駄谷小、鳩森小、神宮前小、原宿外苑中
【Bブロック】中幡小、笹塚中
【Cブロック】臨川小、長谷戸小、加計塚小、常磐松小、広尾中、鉢山中、松濤中

STEP 2　小規模校が適正規模となるような再配置を検討

- 小規模校と隣接する学校の組み合わせを全て抽出しました。
  ⅰ）同一学校種別（小学校×小学校、中学校×中学校）の統合を検討しました。
  ⇒隣接する2校、もしくは3校以上の統合
  ⅱ）小学校×中学校の小中一貫校化を検討しました。
  ⇒同一の中学校区内にある小学校であり、かつ最寄りの小学校との小中一貫校化

STEP 3　再配置を行うことが適当でないと考えられる組み合わせを除外

- 以下の視点から、再配置を行うことが適当でないと考えられる組み合わせを除外しました。
  ⅰ）再配置により大規模校となる組み合わせ
  ⅱ）再配置後に適切な通学距離を確保できない組み合わせ（小学校1.0km、中学校1.5km程度）
  ⅲ）小学校と中学校の校区が整合しない小中一貫校の組み合わせ
  ⅳ）地域における小学校・中学校・小中一貫校の配置が偏る組み合わせ

≪検討結果≫
【Aブロック】千駄谷小×原宿外苑中　【Bブロック】笹塚小×笹塚中　【Cブロック】猿楽小×鉢山中

STEP 4　再配置計画敷地の選定

- 以下の視点から、再配置を計画する学校敷地の選定を行いました。
  ⅰ）**敷地面積**：再配置される学校敷地は、相対的に大きなものとする。
  ⅱ）**建物床面積**：再配置後に、十分な校舎・屋内運動場を建設できる敷地とする。

学校規模
大規模化

通学距離
長距離化

**以上の理由から、
さらなる小中一貫教育校化は
適切ではありません。**



※渋谷区『新しい学校づくり』整備方針より抜粋

≪再配置の選定結果≫

【Aブロック】原宿外苑中学校敷地に千駄谷小学校との小中一貫教育校を計画する。
【Bブロック】笹塚中学校敷地に笹塚小学校との小中一貫教育校を計画する。
【Cブロック】鉢山中学校敷地に猿楽小学校との小中一貫教育校を計画する。

建て替えを進めるために検討した対応方法

①学校の統廃合　②小中一貫教育校化　③改修（リファイニング）　④既存校の空き教室利用

③改修（リファイニング）

1 現在求められる学習空間には、より広い面積が必要

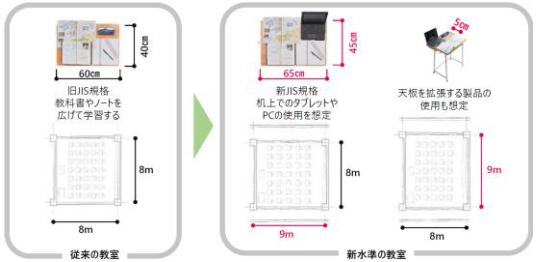
35人学級、協働学習、ICTを活用した学習などに対応するためには、教室の広さに加え、多様な学習活動に対応できる空間を確保する必要があります。

2 改修では、建物全体の面積を増やせない

既存校舎の間取りを変更することはできますが、建物全体で使える面積そのものを増やすことはできません。そのため、現在求められる学習空間を十分に確保することが難しくなります。

3 既存躯体の寿命

区の学校施設は、耐震診断・補強を完了しており、また、定期の大規模改修等により一定の長寿命化を行ったうえで、各種の指針などを踏まえて、学校の寿命を約80年程度としています。



求められる教育環境の変化に伴い、
新たな教育制度や学習方法への対応が必要となります。

昭和50年代の教室

一斉授業 40人学級 密集配置の机	当時の教室面積 約1.6㎡/人（約64㎡/室） 密集配置 机サイズ　旧JISサイズ 60cm×40cm

現在求められている教室

協働学習 35人学級※ ICT活用	現在の教室に求められる面積 約2.0～2.4㎡/人（約72㎡/室） 活動空間の確保 机サイズ　新JISサイズ 65cm×45cm

※令和３年４月：公立義務教育諸学校の学級編成および教職員定数の標準に関する法律の改正

文部科学省が進める「新しい時代の学びの環境の整備」に即して、
渋谷区は「未来の学校」として、子供たちのより良い教育環境を実現しようとしています

⇦渋谷区「新しい学校づくり」整備方針から抜粋

④既存校の空き教室利用

1 空き教室は、必要な教育活動に使用

各校の教室は、少人数指導や特別支援教育など、児童・生徒の学習を支えるための教室として活用しています。

2 １校分をまとめて受け入れる教室数がない

建て替え対象校の児童・生徒を、1校分まとめて受け入れられる学校はありません。

3 複数の学校への分散は困難

これまで一緒に学んできた児童・生徒を分けることとなり、学びの継続性や学校生活に影響が生じます。また、児童・生徒や教職員の移動、安全確保、教職員配置、学校運営の一体性にも大きな課題があります。

各学校における現在（令和8年度）の教室活用状況

西原キャンパスと大山公園仮設校舎の使用予定校	① 普通教室として利用可能な教室数	② 全学年のクラス数の合計 ※1	①－② ※2
代々木中学校	14	11	3
幡代小学校	27	25 (22＋3)	2
西原小学校	23	20	3
笹塚中学校	12	10 (7＋3)	2
上原小学校	17	16	1
富谷小学校	25	23 (20＋3)	2

※1 「＋青文字」の数字は特別支援学級の数
※2　少人数教室として使用中

改修や空き教室利用では、建て替え期間中に必要な教育環境を十分に確保することは困難です。

検討の結果、新たな仮設校舎が必要と判断しました

建替えで生じている課題

1. 西原地区の学校建替え完了まで約28年に長期化
2. 築後80年を超える学校が生じる
3. 自校内建替えが難しい学校がある

検討した対応方法

① 学校の統廃合

② 小中一貫教育校化

③ 改修（リファイニング）

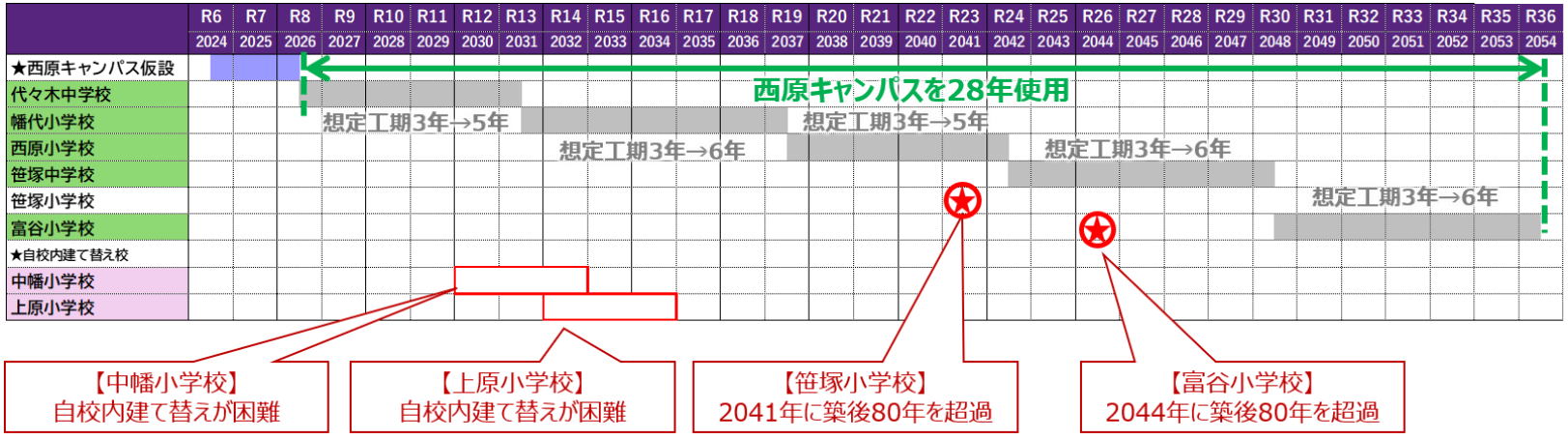
④ 既存校の空き教室利用

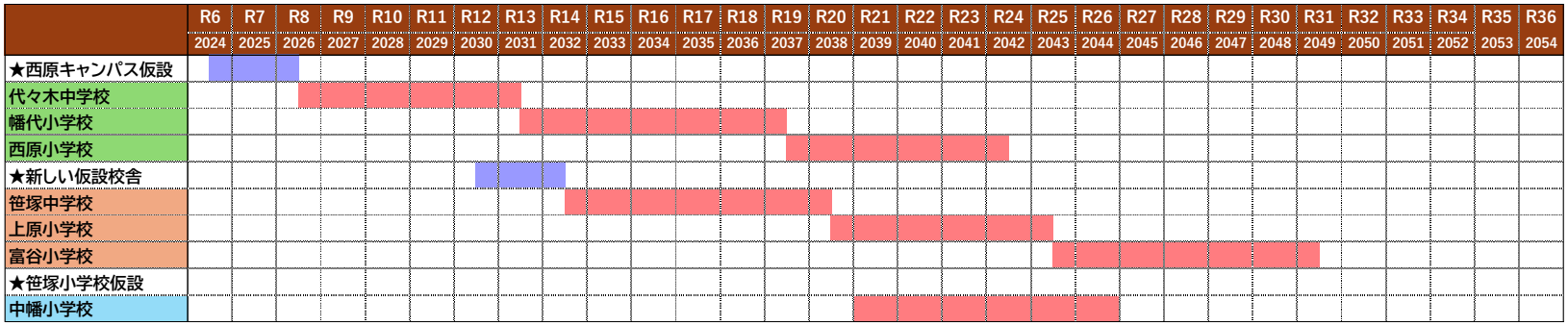
検討結果

いずれの方法も、
建て替えの長期化と
自校内建て替えの課題を
十分に解消できない

新たな仮設校舎を加え、
建て替えを進める必要があります

学校建替えを着実に進めるため、 新たな仮設校舎が必要と判断しました





なぜ代々木大山公園を仮設校舎の候補地としたのか？

1 敷地規模
校舎と運動スペースを確保

2 通学負担
対象校からの距離を抑える

3 平準化
複数校の同時進行

地区名	公園名	位置	面積	土地所有別	便所設置	開園年月日
上原	富ヶ谷しだれ桜公園	富ヶ谷一丁目32－26	274	区		令和 4. 3.28
	代々木深町小公園	富ヶ谷二丁目34－1	3,243	国	◎	昭和52. 4. 1
	富ヶ谷二本杉〃	富ヶ谷二丁目2－13	1,759	区	◎	平成24. 4.23
	富ヶ谷〃	富ヶ谷二丁目15－15	703	〃	○	昭和25.10. 1
	富ヶ谷二丁目児童遊園地	富ヶ谷二丁目30－2	369	〃		〃 62. 4. 1
	宮ヶ谷〃	富ヶ谷二丁目45－6	223	〃		〃 41. 4. 1
	上原〃	上原一丁目45－3	344	〃		〃 39. 4.13
	上原二丁目〃	上原二丁目6－4	237	〃	○	平成 4. 4. 1
	上原公園	上原三丁目13－10	977	〃	◎	昭和48.12.25
	上原三丁目児童遊園地	上原三丁目44－8	129	〃		〃 49. 6.10
西原	西原一丁目公園	西原一丁目29－1	3,392	区・民	◎	〃 61. 4. 1
	西原せせらぎ〃	西原一丁目40－50	1,733	区・国		平成12. 4. 1
	代々木西原〃	西原一丁目47－8	3,306	区	○	昭和39.10.13
	玉川上水旧水路緑道	西原一丁目・二丁目地内	7,461	都		平成 8. 4. 1
	西原どんぐり公園	西原二丁目25－1	209	区		〃 16. 4.20
	西原いこい〃	西原二丁目41－6	106	〃		〃 9. 3. 1
	西原二丁目児童遊園地	西原二丁目46－1	197	〃	○	〃 6. 4. 1
	代々木大山公園	西原二丁目53－1	15,096	〃	◎	昭和25.10. 1
	西原児童遊園地	西原二丁目11－10	100	国		昭和26. 3. 1
	玉川上水旧水路大山緑道	大山町地内	4,484	都	○	平成 8. 4. 1
	大山児童遊園地	大山町6－8	536	区・国	○	平成 7. 4. 1
	玉川上水旧水路幡ヶ谷緑道	幡ヶ谷一丁目地内	5,771	都		〃 8. 4. 1

出典：渋谷区勢概要2025

学校用地として**7,000㎡**以上の敷地面積を確保することが望ましい

【通学距離の目安】
小学校： 概ね1.0km以内　　中学校： 概ね1.5km以内

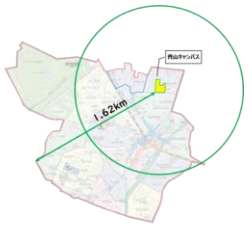
		代々木大山公園		笹塚小学校敷地	
笹塚中	候補地から学校の距離	0.73km			
	候補地から学区内の最長距離	1.40km	○	対象外 ※1	
	甲州街道（国道）の横断	有			
上原小	候補地から学校の距離	0.65km		1.35km	
	候補地から学区内の最長距離	1.20km	○	2.10km	×
	甲州街道（国道）の横断	無		有	
富谷小	候補地から学校の距離	1.03km		2.01km	
	候補地から学区内の最長距離	1.70km	○	2.60km	×
	甲州街道（国道）の横断	無		有	
中幡小	候補地から学校の距離	1.00km		0.60km	
	候補地から学区内の最長距離	1.40km	×	1.00km	○
	甲州街道（国道）の横断	有		無	

※1　笹塚小中一貫校となった後の使われなくなった小学校跡地を仮設校舎として利用する計画のため、一貫校化前の小学校を仮設校舎としては利用できません。

西原地区学区域



神南小学校学区域



スクールバスを使えば、離れた場所でもよいのでは？

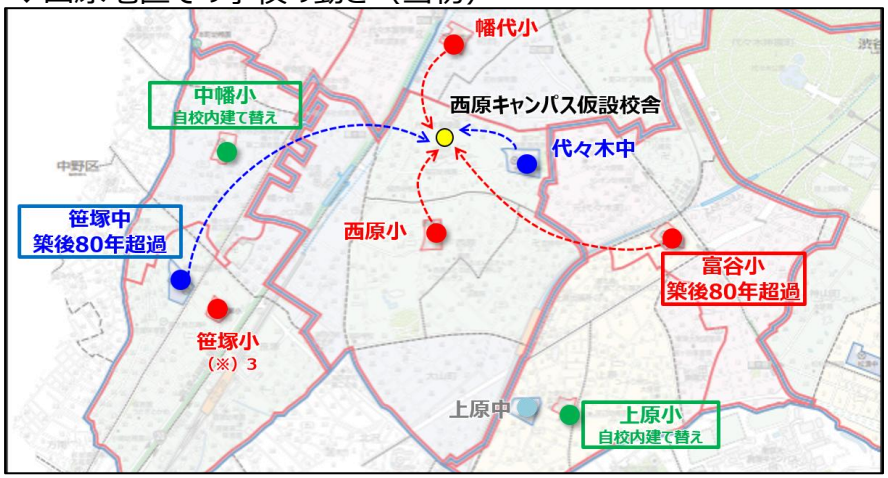
決められた時刻に集合
朝早い集合や、乗り遅れ・遅刻への対応が必要

交通事情の影響
渋滞などにより、運行時間が不確実

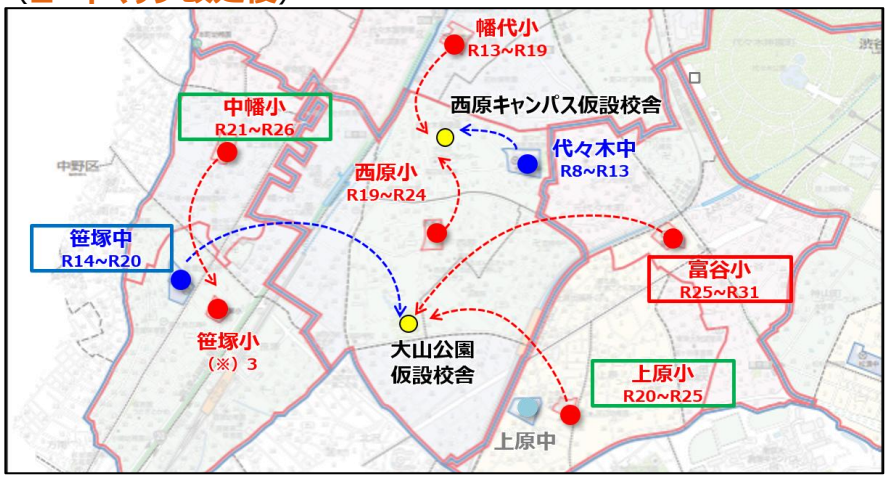
登下校以外の往来
途中下校・送迎・学校行事にも移動が発生

スクールバスだけで通学負担を解消することは難しく、**通学距離そのものをできる限り短くすることが重要**です

◆西原地区での学校の動き（当初）

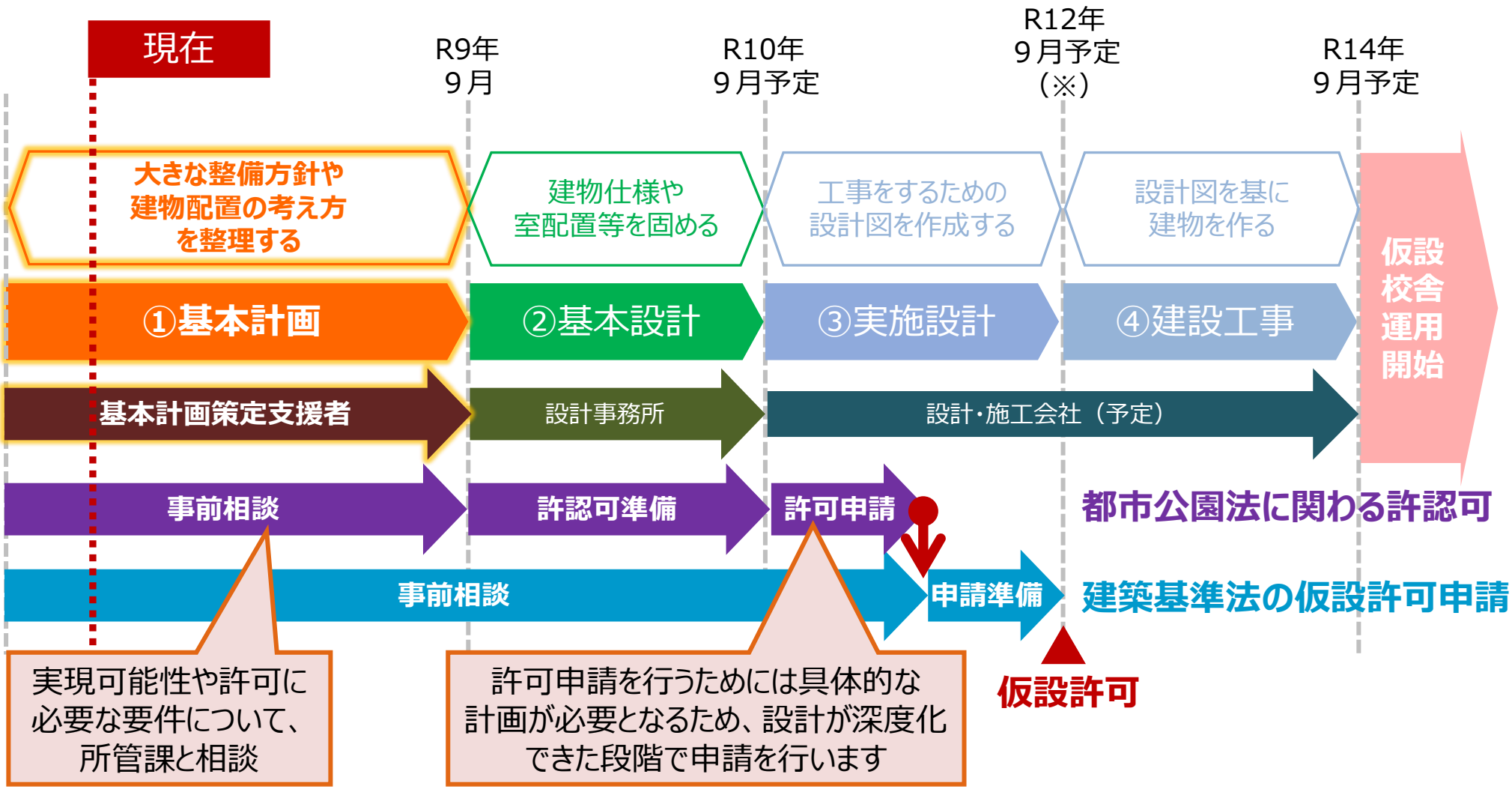


（**ロードマップ改定後**）



（※）3　笹塚小は笹塚中新校舎で小中一貫教育校となる予定です。
一貫校に移転後の笹塚小を中幡小が仮設校舎として利用します。

これからどう進めるのか？



（※）解体工事や公園整備等は、仮設校舎建設に先立って工事着手する可能性があります。

現在の代々木大山公園の主な機能

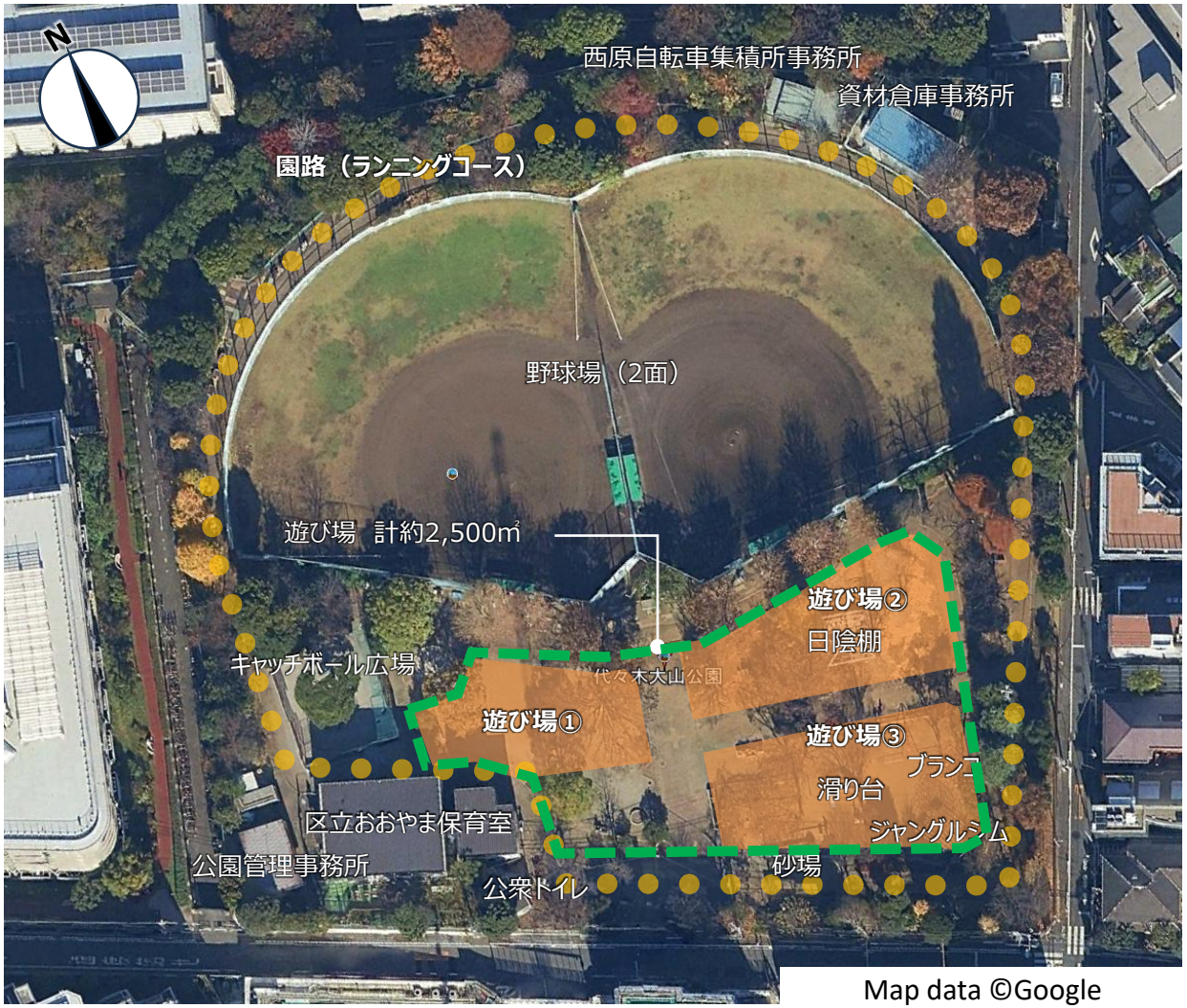
現在の公園機能をできる限り維持することを基本に、配置や運用方法を検討していきます。


園路（ランニングコース）


緑地（公園南側入り口）


遊び場①


遊び場②（日陰棚）




遊び場③（ブランコ）


遊び場③（ジャングルジム）


遊び場③（滑り台）


遊び場③（砂場）

野球場の開放方法の変更案

【現状モデル】 9:00～17:00

		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
A面	午前	休場 (長期休暇中のみ開館)	予約優先	予約優先	予約優先	予約優先	少年野球利用	少年野球利用
	午後		遊び場開放(※)	少年野球利用	遊び場開放(※)	遊び場開放(※)		
B面	午前		予約優先	予約優先	予約優先	予約優先		
	午後		遊び場開放	遊び場開放	遊び場開放	遊び場開放		

(※)当日に団体予約が入っていない場合は開放

【令和7年度稼働率】
土曜日：82.4%　日曜日：84.3%　水曜日(A面)：81.9%　予約優先(水曜日以外)：約4%～13%

【開校後モデル】 9:00～17:00

		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
A面	午前	校庭利用	校庭利用	校庭利用	校庭利用	校庭利用	少年野球利用	少年野球利用
	午後	校庭利用	校庭利用	校庭利用	校庭利用	校庭利用		
B面	午前	遊び場開放	遊び場開放	予約優先	遊び場開放	遊び場開放		
	午後	遊び場開放	遊び場開放	少年野球利用	遊び場開放	遊び場開放		

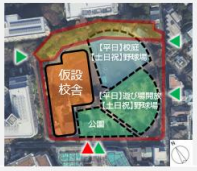
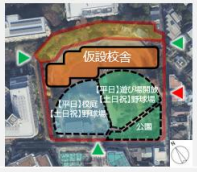
※この利用方法は現時点の案です。上記時間以外の早朝・夜間、野球利用されていない時間帯での遊び場(広場)開放についても、安全性、学校運営、野球利用、広場利用及び地域の皆様のご意見を踏まえ、今後検討します。

公園機能をどう維持するのか？

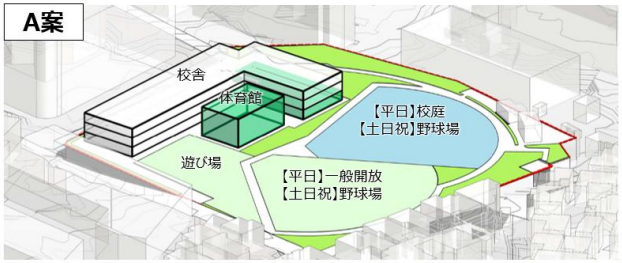
仮設校舎建設に伴う公園機能への影響を踏まえ、以下の機能維持策を検討しています。

公園機能	仮設校舎建設による影響	公園機能維持の考え方
遊び場①	屋外の遊び場面積の減 （現況 計約2,500㎡→約1,300㎡） 設置できる遊具の数、種類の減	・野球場を人工芝化することで、ボール遊びや、自由な運動ができる**全天候型の広場として計画**
遊び場② 日陰棚		・仮設校舎１階に**一般開放・地域開放諸室を配置** ・教育活動に支障がない夜間や、休日の**体育館の開放**
遊び場③ 砂場		・既存の遊具は現行の安全基準を満たしていない可能性がある為、代替となる**インクルーシブ遊具を配置** ・多様な子ども達にとって安心・安全な遊び場を計画 ※インクルーシブ遊具とは、年齢・性別・文化・個性を気にせず誰もが楽しく安心して利用できる遊具のことです。
遊び場③ 滑り台		
遊び場③ ジャングルジム		
遊び場③ ブランコ		
園路（ランニングコース）	周回距離の減 （現況 約500m→約300m）	・１周　約300mのランニングコースを確保
緑地	仮設校舎に干渉する部分の伐採や移植	・**既存同等の緑地面積を確保することを前提**とし、健全な樹木については移植を検討

工期・コストの面ではB案の配置が合理的と考えますが、校舎配置については、皆様のご意見を伺いながら検討してまいります。

		A案	B案	C案	D案
イメージ					
概略工期		B案＋約6か月	基準 ※野球場の位置が変わらない為４案の中で、最も工期が短い	B案＋約6か月	B案＋約6か月
概略コスト		B案＋約2億円	基準 ※既存野球場の防球ネットを残置できるため、他より安価	B案＋約2億円	B案＋約2億円
住環境 景観・視線	東	★★★ 野球場を介した配置となるため景観への影響は小さく、見合いの機会も少ない	★★★ 公園を介した配置となるため景観への影響は小さく、見合いの機会も少ない	★ 仮設校舎の長辺が面するため景観への影響があり、見合いの機会も増える	★★ 仮設校舎の短辺が面するため景観への影響はあるが、見合いの機会は少ない
住環境 景観・視線	南	★★ 仮設校舎の短辺が面するため景観への影響はあるが、見合いの機会は少ない	★ 仮設校舎の長辺が面するため景観への影響があり、見合いの機会も増える	★★ 仮設校舎の短辺が面するため景観への影響はあるが、見合いの機会は少ない	★★★ 野球場を介した配置となるため景観への影響は小さく、見合いの機会も少ない
住環境 音の影響	東	★ 学校活動及び公園活動の音の影響がある	★★★ 現状から大きな変化なし	★★★★ 校舎で遮蔽されるため、公園活動の音は小さくなる可能性がある	★★ 公園活動の音の影響がある
住環境 音の影響	南	★★ 公園活動の音の影響がある	★★★★ 校舎で遮蔽されるため、公園活動の音は小さくなる可能性がある	★★ 公園活動の音の影響がある	★ 学校活動及び公園活動の音の影響がある
住環境 日影	東	★★★ 現状から大きな変化なし	★★★ 現状から大きな変化なし	★ 季節を問わず影響あり	★★ 季節と時間帯により一部影響あり
住環境 日影	南	★★★ 現状から大きな変化なし	★★★ 現状から大きな変化なし	★★★ 現状から大きな変化なし	★★★ 現状から大きな変化なし

A案

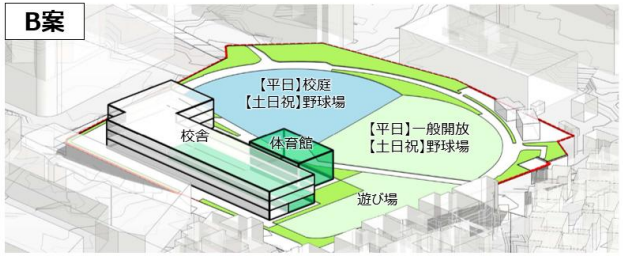


配置イメージ（案）



1階イメージ（案）

B案



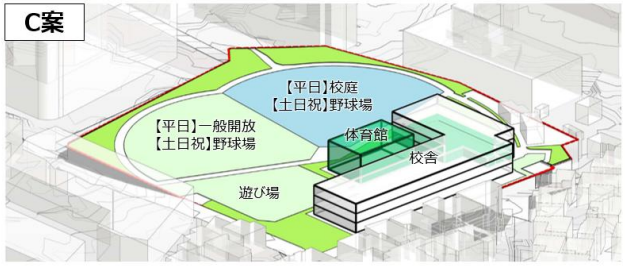
配置イメージ（案）



1階イメージ（案）

※本資料は現時点でのイメージを示すものであり、計画内容を確定するものではありません。今後の検討状況により、内容が変更となる可能性があります。

C案

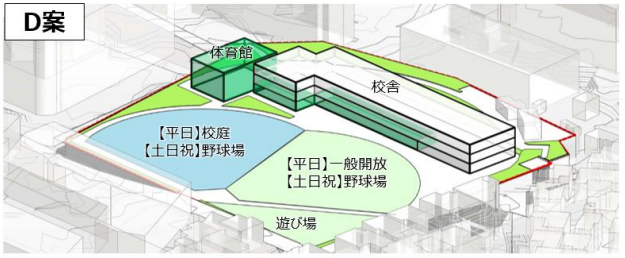


配置イメージ（案）



1階イメージ（案）

D案



配置イメージ（案）



1階イメージ（案）

※本資料は現時点でのイメージを示すものであり、計画内容を確定するものではありません。今後の検討状況により、内容が変更となる可能性があります。

公園利用に関するワークショップを実施しました（令和８年10月24日開催）

A・B・Cの3テーブルに分かれ、写真や模型等を見ながら、現在の公園利用と仮設校舎の配置案について意見交換を行いました。



会場全体図


模型


テーブルごとの検討


発表会

1 現在の公園利用

日 日常利用

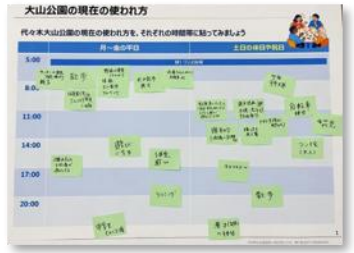
- 早朝はラジオ体操、散歩、ウォーキング、トレーニング
- 日中は保育園・親子の遊び、休憩、キャッチボール
- 夕方以降はランニング、犬の散歩、幅広い年代の休憩利用

行 行事での利用（土日）

- 少年野球利用（チーム・保護者・兄弟が長時間滞在）
- 運動会、花見、教室など、多様な地域活動の利用

遊 遊び場の使い方

- 大型遊具や樹木・木陰の利用
- ベンチやテーブルでの休憩・飲食
- キャッチボールエリアでのベタンク



2 各校舎配置案に対する意見

A案



・住宅と野球場が近い
・校舎を斜めに配置できないか
・体育館の騒音は少なそう
・南側道路側の校舎入口は危険
・4案では相対的にA案がよい

B案



・野球場や遊び場の位置が変わらない
・南側道路側の校舎入口は危険
・景観が大きく変わる
・建物の日影や視線が心配
・公園の入り口に制限が生じる

C案



・日照の問題がある
・住宅に対して圧迫感がある
・樹木がほとんど残らない
・公園の入り口に制限が生じる

D案



・ホームベースは逆にした方がよい
・学校と住宅のプライバシーは確保してほしい
・教育活動に伴う騒音は気にならない
・人工地盤分、遊び場が小さくなる
・住宅と野球場が近く、声が気になる

配置案に共通して重視された視点

公 公園機能・遊び場・樹木
遊び場、樹木・木陰、ラジオ体操など、現在の多様な利用環境をできる限り確保してほしい。

住 住民・周辺環境
日照、圧迫感、騒音、視線、景観への影響を抑え、住宅地側に空地・緑地を確保してほしい。

安 安全・動線
狭い前面道路や坂道を踏まえ、通学出入口・車両動線の安全確保をしっかり検討してほしい。

校 校舎の配置工夫
階数、分棟、既存施設、野球場の規模、人工地盤の活用などにより、公園部分を確保してほしい。